

令和6年度 益子町立益子西小学校 学校評価書

教育課程 外国語活動・外国語科編

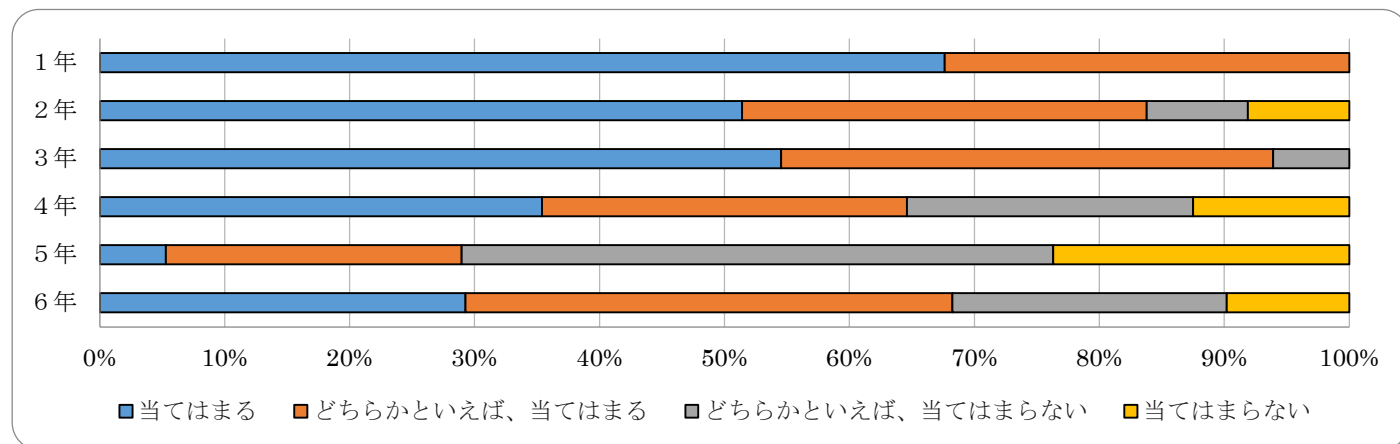
< 具体の評価指標 >

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させている。
- ・ 外国語活動・外国語科に対する興味・関心、外国語の表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。

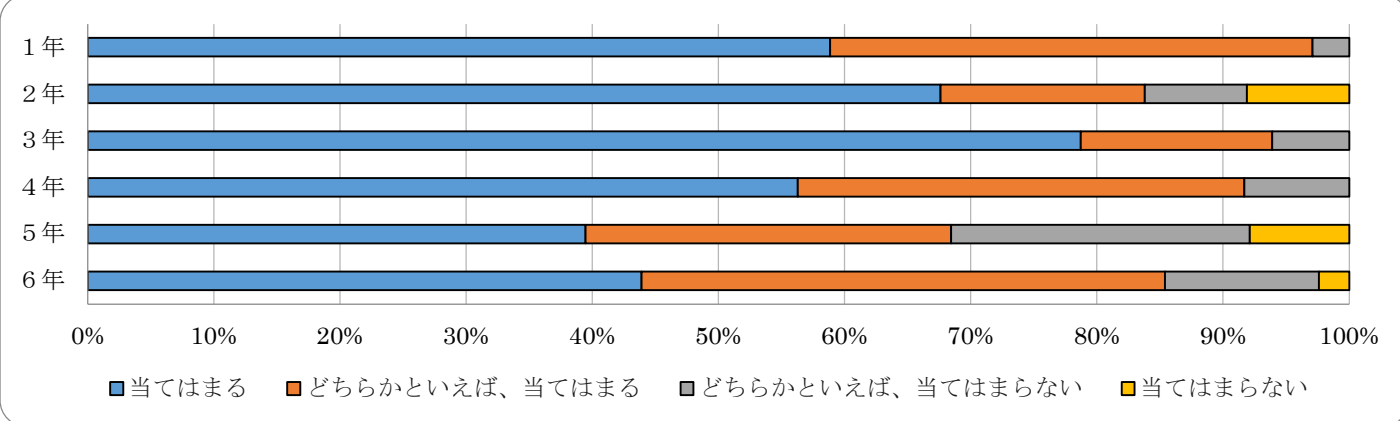
①自己評価

(1) 児童の意欲について（令和7年2月実施のアンケート結果より）

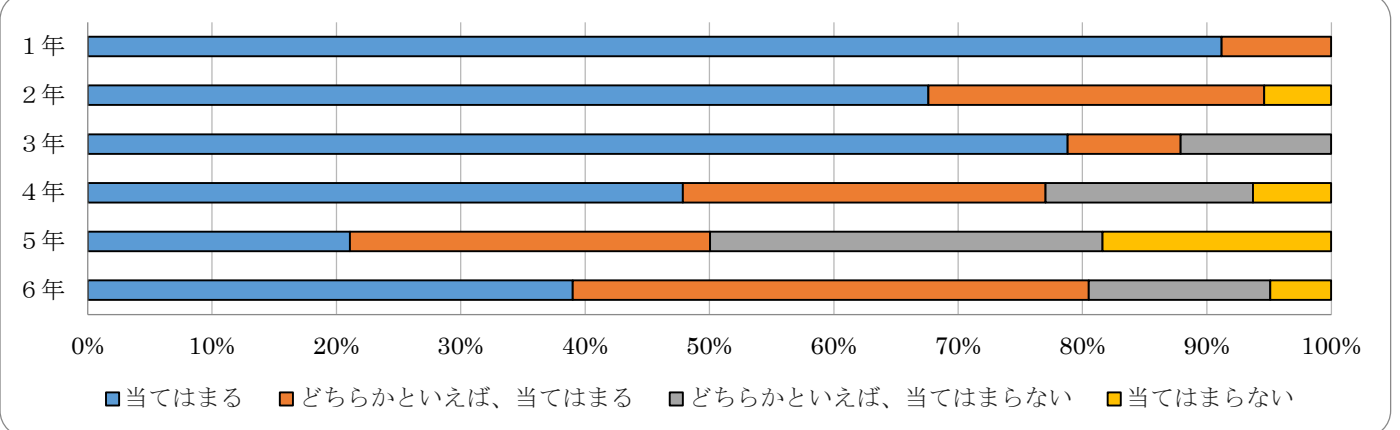
①外国語活動・外国語科の授業は好きである



②外国語活動・外国語科の授業に進んで参加している



③外国語活動・外国語科の授業で、先生や友達とのコミュニケーションは楽しい



〈成果〉

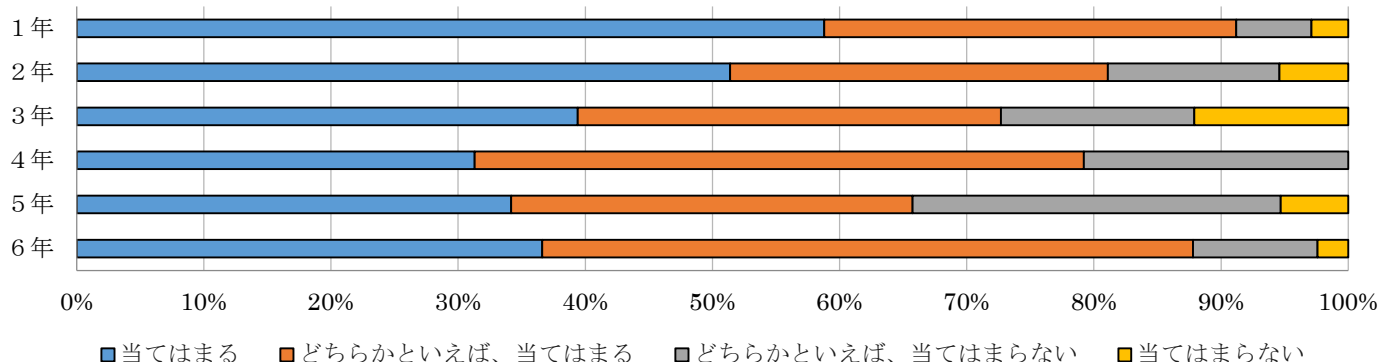
- ・上記3項目の結果から、多くの児童が外国語活動の授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。また、先生や友達とのコミュニケーションは楽しいと感じている児童が多く、コミュニケーション活動にも意欲的に取り組んでいることが分かる。
- ・「外国語活動・外国語科の授業に進んで参加している」では、肯定的な回答が5年生では7割近く、その他の学年では8割以上であった。多くの児童が意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。
- ・「先生や友達とのコミュニケーションは楽しい」では、肯定的な回答が低学年では9割以上、3年生は8割以上だった。1～3年の児童の多くが、英語でのやり取りに抵抗感なく楽しく取り組んでいることが分かる。授業時数が少ない1～3年生でも、授業中に十分に英語でのコミュニケーションを図っていると推察できる。
- ・3年生は、3つの項目全てで肯定的回答が8割を超えている。低学年の外国語活動から中学年の外国語活動への接続が上手いっていると推察できる。3年生の学習内容と同じ簡単な英語のやり取りを低学年でも取り入れて、繰り返し指導してきた成果だと考えられる。

〈課題〉

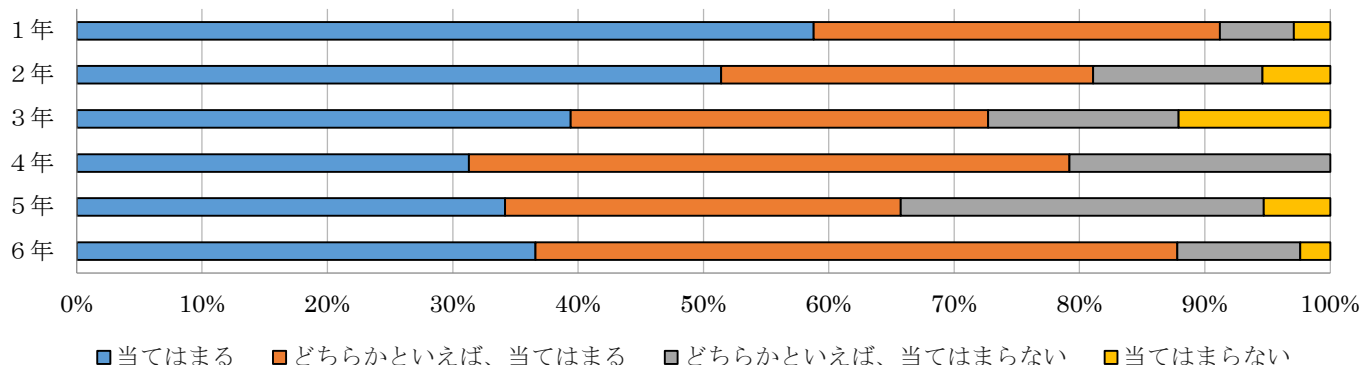
- ・1～3年生と4～6年生を比べると、肯定的回答に大きな差が見られる。特に、5年生の肯定的回答が他の学年に比べて低くなっている。使用する英語表現や友達とのやり取りが増えたことで苦手意識をもった児童が増えたこと、中学年の外国語活動から高学年の外国語科への接続に課題があることが想像できる。学年が上がるにつれて学習内容が難しくなるが、高学年の児童も意欲的に授業に取り組み、英語に楽しく親しめるように、教材や言語活動の工夫をしていきたい。

(2) 児童の英語力やコミュニケーション力について（令和7年2月実施のアンケート結果より）

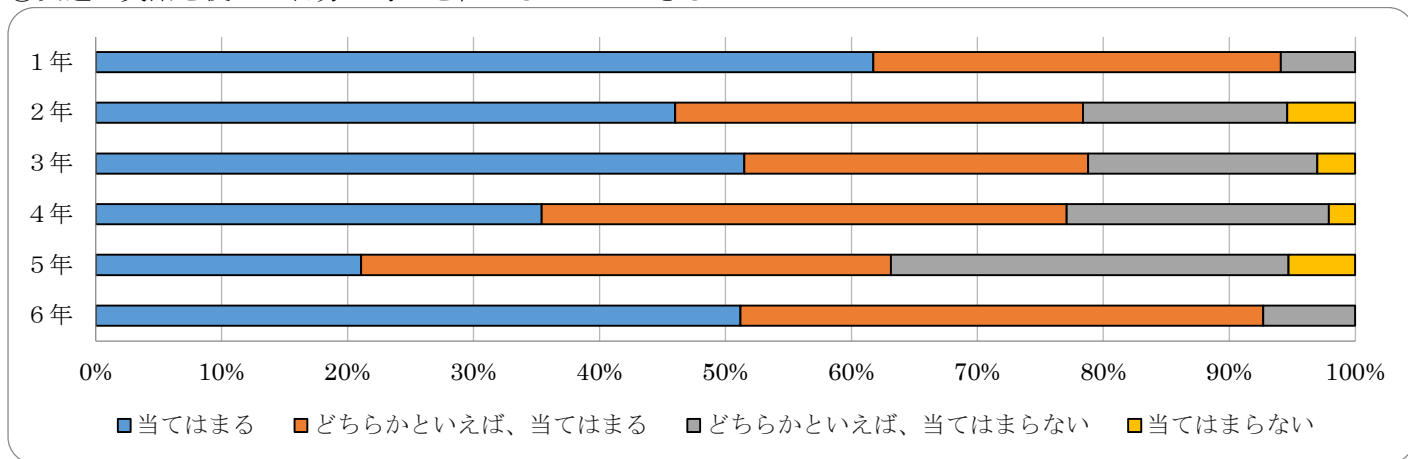
①授業で、英語専科や担任の先生、友達が使う英語の意味がわかる



②授業で、ALT が使う英語の意味がわかる

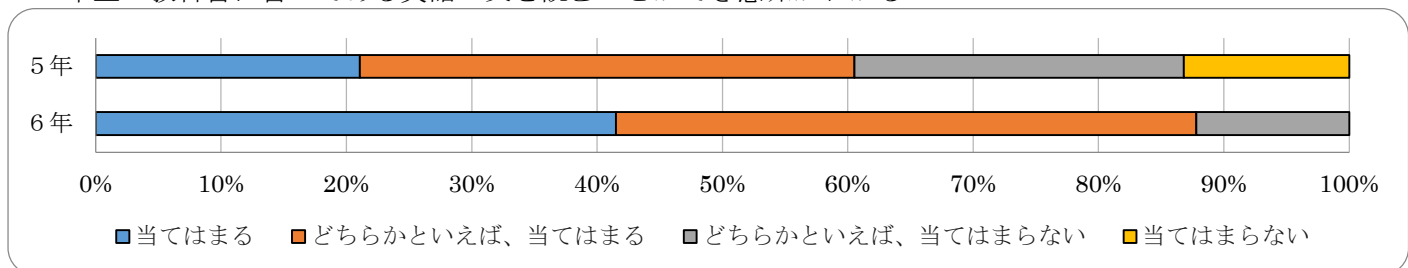


③友達に英語を使って自分の考えを伝えることができる



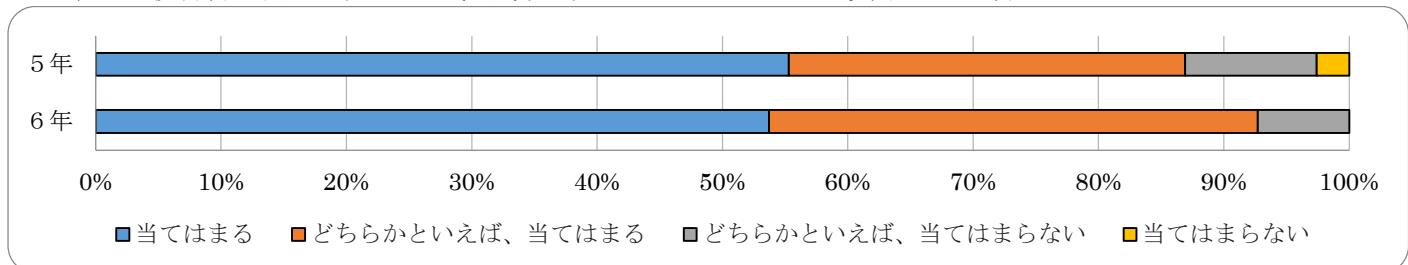
④ 5年生 英語で書かれた名前や教科書に出てくる言葉を読むことができる

6年生 教科書に書いてある英語の文を読むことができ意味がわかる



⑤ 5年生 アルファベットの大きい文字・小文字や簡単な単語を書くことができる

6年生 教科書や例文を見ながら、自分が伝えたいことについて英語で文を書くことができる



〈成果〉

- ・学年によって差はあるが、多くの児童が担任や専科教員、友達が話す英語を理解しており、かつ、ALTの話す英語も同程度の児童が理解していることが分かる。どの学年でも教師やALTが英語による簡単な指示や説明を用いながらの指導を継続してきた成果だと考えられる。また、どの学年の児童も友達やALTとの英語でのやり取りに積極的であることも関係していると考えられる。
- ・5年生で6割以上、1～4年生は7割以上、6年生では9割以上の児童が英語で自分の考えを伝えることができると回答した。各学年の実態に合わせたインタビュー活動やスピーチ活動を積極的に取り入れてきた成果だと考えられる。
- ・アルファベットや簡単な単語を書くことができる児童は約9割だった。「読む」「書く」活動に児童が意欲的に取り組み、アルファベットや単語の読み書きなどが定着してきていることが分かる。6年生の方が5年生よりも肯定的回答が多いことから、6年生は2年間の学習を通して文字や文を読んだり書いたりすることに十分に慣れ親しんでいると推察できる。（※小学校での書く活動は、アルファベットの読み書きと単語や英文を書き写す活動となっている。）

〈課題〉

- 担任や専科教員、ALT の話す英語への理解度が、学年によってやや差がある。この差を縮めて、どの学年の児童も専科教員や ALT の話す英語を理解できるようにしていきたい。児童が理解できる簡単な英語で指示をしたり、児童にその都度確認したりしながら授業を行っていく必要がある。
- 「読む」の学習に苦手意識をもっている 5 年生が 4 割程度いることから、5 年生から始まる文字を読んだり書いたりする学習はスモールステップで行う必要があると考えられる。2 年間を見通した系統的な指導をして、児童が段階的に文字、単語、文の順に慣れ親しんでいけるようにしていきたい。
- 教科書以外にも絵本などを積極的に活用し、簡単な英語に触れる機会や英語を聞く経験を増やすことで、児童の理解度を高めていく必要がある。